

第10回「県政ひざづめ談議」概要

開催日時：平成19年11月1日 16:30～

開催場所：東京會館

〔司会〕

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行を務めさせていただきます、県の広聴広報課長、田中です。

よろしくお願いいたします。

それでは、最初に横内知事からごあいさつをお願いいたします。

〔横内県知事〕

横内でございます。

諸先輩には、お忙しいところを今日は、こうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。

日頃、山梨県を本当にご心配をいただき、何かと県政にご支援を賜っておりますことに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

今日は『県政ひざづめ談議』ということで、先生方から山梨をどうしたらいいかというお話を承りたいという企画を立てさせていただきました。

『県政ひざづめ談議』というのは、私になりましてから始めたものでございます。

県民の各界、各階層の皆さんに小人数で集まっていただいて、もうざっくりばらんに言いたいことを言っていたく。

そういう中から、皆さん方の本音が出てくるのではないかとということで、こういう『県政ひざづめ談議』というものを月2回か、そんなふうに行っております。

今回は、山梨を愛し、山梨を心配していただける京浜地区山梨県人会の主だった方々に、ご意見を承りたいということで、企画をさせていただいたところでございます。

是非ともこの際、色々ご意見がとおりだと思っておりますので、忌憚のないご意見を承って、そして、できるだけ県政に反映をしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

〔司会〕

ここで、本日ご出席いただいております皆様のご紹介を、小沼東京事務所長からお願いいたします。

（出席者紹介）

〔司会〕

それでは意見交換に入ります前に、司会のほうから進行上のお願いをいたします。

本日は東京、神奈川などの京浜地域でご活躍されています、ふるさと山梨に郷土愛をお持ちいただいている皆様方と「京浜に近いふるさと山梨」をテーマに、意見交換を行いたいと思います。

本県は、政治経済の中心であります東京圏に近く、そういう優位性を活かした「暮らしやすさ日本一」を実現するためにどういうふうにすればいいか、それから何が施策に必要なかという観点で、参加者全員で話し合いを進めていただきたいと思っております。

それから、意見を聞きながら気が付いたこと、そういうことを何でも結構ですので、思うところを自由に活発に発言していただきたいと思っております。

本日いただいた皆様のお考え、それからご意見、これは今後の県政に参考にさせていただきます。

それではご発言をお願いしたいと思います。

[参加者]

知事さんは色々と情報発信をされるわけですがけれども、この情報発信をしていく前提として、絶対に私は、受信力を高めていかなければいけないと思えますし、その受信力こそ行動力の賜物だというふうに思っております。さらには現場にしっかり足を運び、それが知事さんの足が、多分現場の心を動かしてくれるんじゃないかな、ということ強く感じております。

この場が横内知事の受信力アップの場になっていただければ、こんな幸せはないと思っております。

そういった意味で、皆さん方から色々ご意見が出てくると思いますので、どうぞ一つお聞き取りの上、政策に反映をいただけたらありがたいなと、こんなふうに思っております。

実は山梨のことを色々な人に聞くんですけども、山梨に一度行ってみない

と、なかなかその良さが分からないということを聞きますので、是非体験するための何かのツアーをやっていただくといいのかなと。

こう申しますのは、笛吹のフルーツ公園ですね、あそこなどは行くともものすごくいいというわけです。

しかし、そういったことを幾ら話をしても、「へえーそんな所かな」という感じで、体験がありませんからね。

体験があると、これは口伝えに必ずやってくれると思いますので、そのことをまず一つ、どういう形が良いか分かりませんがやらせていただきたい。

それから、山梨には色々資産があるんですけども、この資産について、多分、お客様は余りそのことが分からないので、できることなら真剣になった意味も含めて、お客様調査みたいなものを絶対する必要があるはしないかな、ということを常々感じます。

それから、知事さんは「健康長寿日本一」ということを言われているんですけども、ほとんど知られていませんよね。

女性が一位で男性が三位だそうです。

そうなった理由というのは何か色々あると思うので、そういったことを発信することによって、この近辺にいる人たちが向こう（山梨）へ第二の住宅を構えるようなこともあるだろうと思います。

それからもう一つ、知事さん中国に行かれましたね。

あの時に四川省での発信はしておりますけれども、これからはただ単に国内市場だけを相手にしてもだめなんで、できることならば国際見本市のようなものを山梨で開いたらいいじゃないかなと思うんですよね。

そこで来ていただくことによって、体験をした上で色々な意味で山梨を分かってくれるだろうし、山梨の色々な特産物など分かっただけ。

そんなことを是非やっていただきたいことを、お願いをしておきたいと思います。

〔知事〕

いろんな観光のPRはして、旅行者に対していろんな働き掛けをして、いろんな観光ツアーは彼らが組んではくれているんですけども。

〔参加者〕

身近な例で、社員の一人が、フランスから帰ってきたんですね。

どこか近くに行きたいなということで、自分の奥さんと一生懸命探して、笛吹フルーツ公園に行って、何と素晴らしいかとびっくりしたというんですね。

山梨はこんなにすごい所がある。

それからもう一つ、蕎麦の話があって、大菩薩峠かどこかに行く途中にもものすごくおいしい所があるんですってね、そういった意味で色々あるんだけど、分かりづらいんですね。

これこそコミュニケーションされていないと思いますので、是非そういったことをやったらと思います。

[知事]

いろんな観光資源を発掘して、それをPRをして、体験ツアーを県が企画というわけにはいきませんから、やはりいろんな旅行社にそういうツアーを組んでもらうということですね。

分かりました。

それは貴重な大事なことだと思います。

本当にフルーツパークは素晴らしくて、行った人はみんな驚き、また喜ぶんですね。

上には、いいホテル、レストランがありますし、さらにその上に行きますと、山のとっぺんに露天風呂がありまして、行った人はみんなびっくりします。

そこから見ると、もう甲府盆地がきれいに見え、真ん前に富士山が見えるわけです。

そこへ行った人は、みんな病みつきになるようですけれども、そんなものもありますね。

お客様調査というのは、やはり観光客について色々なちゃんとした調査をして、ニーズをしっかりと把握するようにということですね。

[参加者]

多分皆さん方は、例えば食事だとか何かについて、十分お客様は満足してくれているんじゃないかなと思っているんですけども、しかしそれは思い違いが結構あるという感じがするので、是非やっていただくといいなと思うんですね。

[知事]

分かりました。

「健康寿命日本一」の理由というのは、これはよく分からなくて、山梨大学のある先生がこれを一生懸命分析して、「健康寿命日本一」は理由は何かというと、一つは、ほうとうだと言うわけですね。

それからもう一つは無尽だという話です。

ほうとうと無尽、結局ほうとうのようなスローフード、それからもう一つは

無尽というようなことで、人間付き合いが非常に濃密だという、この2つが長生きの理由なんだろうということを言っておりました。

[参加者]

観光山梨の一番の中心になるのは、やっぱり甲府駅だと思います。

最近、東京都内でも各駅がJRで大分整備されて、それに慣らされてきている年寄りや一般の方が多いと思いますが、甲府駅を見ますと本当に昔からの古びたホームで、昇るエスカレーターはあるけれども降りるのがない。

あとは小さなエレベーター、特に障害者の方はそういうものが必要だと思っています。

是非とも管轄外でしょうが、知事さんの陣頭指揮で一つJRに働き掛けていただいて、まず甲府駅を整備していただきたい。

それからもう一つは、富士の国やまなし館が中央区にあります。

行ってみますけれどもちょっと場所的になかなか分かりにくい。

行ってもなかなかお客さんが入りにくい、入っていない。

そして、管理をやっている方々も力が入っていないと、こういうふうに思います。

それで、連合会では現在事務局を山梨中央銀行からただで借りていまして、いつかはお返ししなくてはならない時期が来ると思いますので、県物産館、それから山梨の物産や観光施設の出張所、それに連合会の事務局を一緒に入れていただける様にお願ひできれば本当に最高だなと。

そして事務局に、できれば県の定年退職者に、1年ぐらい来ていただければ本当にいいなと思います。

[知事]

ありがとうございました。

甲府駅北口の整備は、今、甲府市が中心になってやっておりますして、県も何らかの物をつくるようなことで、あと4、5年しますと北口が今の状況から一新した、かなり近代的、現代的な街になると思いますが、それらの整備と併せて駅の整備についてもJRに要請をしたいというふうに思います。

富士の国やまなし館も、あそこはサラリーマンは確かに通りますけれども、奥さん方とか若い人とか、そういう人は余り来ませんので、本当は場所は余りよくないと私も思っておりますして、新宿辺りが良いのですけれども、新宿辺りのいい所というのはやっぱり高いし、小さくてもいいんですよ、場所がいいほうがいいですね。

おっしゃるとおりだと思います。

[参加者]

賃貸ですと、連合会の中でもそういういい場所にビルを持っているとか、そういう方もいると思いますよね。

それを働き掛けていって探し出すということですね。

[参加者]

銀座松屋の並びに小さいビルですけれども、6階300坪ぐらい空いておりますから、提供してもいいですよ。

[知事]

ただ、物産館は1階でないちょっと・・・

[参加者]

6階でございますから、今玄関では物産や果物などのアンテナショップをやっております。

よろしければ、一度検討して下さい。

[参加者]

山人会は、大正14年に早くに東京出てきた人たちが、山梨の若い人たちをもっと応援しようという、これが基本的な思想です。

それで80年の内、戦後になりまして東京と京浜で大体半々ずつやってまいりました。

かなりメンバーも増えたんですけども、その後やや減ってきておりますが、非常に落ち着いた活動を、手弁当でやっているという団体です。

オリンピックの年から財団法人になりまして、主たる仕事は四賞(山人会賞、望月春江賞、中村星湖文学賞、前田晃文化賞)、その他社会的な色々なことです。

最近、一番興味を持ちましたのは、やまなしサポーターズクラブですね。

やはりどこの県人会でも、高齢化の問題が争えないところで、それは県人会全体においての問題です。

我々の山人会にもそういう問題があります。

高度成長時代に目覚めたような人たちと、その後続く人たちとの間にどこかでギャップができていて、そして既存の組織で必ずしも包摂できないようなところが非常にあるのではないかと。

自治体じゃなくて、もっと一緒に何か手を結ぶような、さっき山梨を見学し

たらどうかというお話がありましたけれども、何かいろんな催しを通じてそんなきっかけを作って、やがてどこかに見通してそれが一つになり二つなり三つなりに固まっていくような、何かそんなようなことを、やまなしサポーターズクラブの記事を拝見しながら思ったような次第です。

[参加者]

私は、5年前から信玄イージャンカーニバルというものを開催しております、この目的は、山梨県の活性化でございます。

私が作曲させていただいた、信玄ロックと信玄サンバというものの、ダンスの全国大会でございます、分かりやすく申し上げますと、北海道でよさこいソーラン祭りというのがございまして、それは踊り手が約4万人集まりまして、観客が約300万人というお祭りであります。

これを、何とか山梨に定着させたいというふうな考えの下に行っておるわけです。

是非一つだけ知事さんに話を聞いていただきたいことがあるんですが、会場の問題でございます、よさこいソーラン祭りがどうしてあんなに大勢の人が集まるかといいますと、札幌のすごい大きい通りを500メートル2本、まるまる3日間貸出をして開催しておるわけです。

ですからあれだけの人が集まることができる。

甲府市には広い通りがございません。

平和通りを1時間も2時間も止めることは、とても不可能なことでございます。

それで私が考えておりますのが、甲府市内で少し中心からはずれておりますけれども、熊野通りというのがございまして、これが甲府市内では一番広い通りであります。

幅が22メートルで長さが1.5キロ、これが借りられることになれば、これはもう難なく10万、20万人の人が集まることができます。

この狭い山梨の道路ですから、借りることは非常に難しいことだと思いますけれども、是非、お力添えをいただければありがたいと思います。

[知事]

朝気の方の道路ですね。分かりました。

それでは県警本部長に話をしてみます。

[参加者]

増穂商業高等学校の存続が問われているんですけれども、私は増穂の出身なので、是非存続をさせていただいて、地域の教育の発展をお願いしたいと思います。

[参加者]

この機会に知事さんにお知らせしたいことと、それからお願いしたいことがございます。

お知らせしたいことは、私は今現在、「NPO法人地球こどもクラブ」の会長をやっております。

この地球こどもクラブが、年間行事の一つとして、富士山の世界文化遺産登録に協力するというのを、今年の総会で決定しました。

協力することの具体的な内容を申し上げますと、富士山の麓を美化しようとするものでありまして、そのために河口湖畔に約1万坪の土地を確保して、10年生のさくらの苗木を10本毎年植樹をすることにしまして、これは文化遺産登録が決まるまでずっと続けるということにしました。

この植樹祭には、クラブの名誉総裁であります高円宮憲仁親王妃の久子殿下とか、全国のこどもクラブのこどもたちや関係者が出席して、もうすでに2回行いました。

以上のことがお知らせしたいということです。

それから、次にお願いしたいことを申し上げますと、富士山の文化遺産登録については、県をあげての一つの運動とされているように聞いております。

そこで、県としても、この運動推進の一部を担っております子どもたちの活動に対して、何らかのご支援をいただきたいと思うわけです。

例えば、感謝状の授与とか、あるいは県の名産をお土産として渡すとかしますと、子どもたちの励みになると思います。

以上申し上げた2つのことについて、知事さんによろしくお願いしたいと思います。

[知事]

具体的にどういう支援ができるか、一度またご相談をさせてもらいたいと思います。

[参加者]

八重洲口にある県のアンテナショップですけれども、近くに事務所がありますのでいつも通るんですけれども、活気がなくて、陳列畑になっていて、パン

フレットをいっぱい置いたりしてはいますけれども、覗きにいつでもだれも声を掛けてくるわけではないし、ただみんな素通りしていく。

もう少し活性化して、何か催しを入れるとかしたらどうか、ということもいつも気にしています。

また、その前に広場がありまして、各都道府県から毎日のように何か来て、地元名産の展示即売会みたいなことをやって、人だかりがしているんですが、県の事務所は目の前で、何か指をくわえて見ているような状態です。

どこに申し込んで、どういう経費で行っているのか分かりませんが、検討していただけたらいいんじゃないかと、そんなふうに日頃思っています。

〔知事〕

これは東京事務所長、何か言いたいことがあるでしょう。

〔東京事務所長〕

八重洲につきましては、今、物を売っていないんです。

当初のコンセプトが情報発信ということで、パンフレット類とか地場産品を置く場だけになっておりましたが、やはり今、物を買いたいということがありまして、知事さんをお願いをして、今改装に入っておりますが、物が売れるような状況にしております。

ちょっと模様替えをできるかなと思っているんですが、基本的に、本県の地場産品というのは、印伝、宝石とか和紙とか嗜好品が非常に多いんですね。

今盛んに儲かっているところの北海道にしても秋田にしても、そういうところはほとんど日用品、奥様が帰って夕飯に使っていくようなハムとか生物が多いので、その辺がちょっとハンデがあるんですが、いずれにしても物を売るような方向で今改装しています。

もう一つ、入り口の広場の地域活性化センターというのを、上のビルで持っているんですが、うちの県も人気がありまして、毎週金曜日に月4回ぐらいイベントをしておりますので、たまたまおいでになる時に合わなかったということで、あそこは人気が高いので、うちの県も夏場はほとんど金曜日に野菜を売ったり、ほかにワインを売ったりとか行っている状況です。

〔参加者〕

県から、医者を知っている人は誰か紹介して欲しいという通知が来ました。

県としても、かなり医療行政に力を入れているんじゃないかな、というふうに感じたわけですが、一つちょっと思いつきですが、県病院とか産婦人科の拡充をして、それで例えば子どもを産むんならば山梨に行って産もうとい

う形で受け入れる体制を整えれば、親が一人そこに来るだけじゃなくて、産まれば2人になるし旦那が来れば3人になるわけですよ。

私は、空気がいい山梨で、子どもを産むには最高だと思うんですよ。

そういうことで一つ考えていただきたいと思います。

もう一つ、今、風林火山が全国区になっています。

それを一過性のものにするんじゃなくて、県で、例えば地域ごとに風の街とか林の街とか、果実、宝石、笛吹のフルーツ公園、そういう特色がある所に名前を付ければいいんですよ。

それで順々に風の町、林の町、こうまわってそれで判子を押してもらおうと。

それを終わったら、何か県のお土産でもあげるというふうなことであったら、人出もどんどん増えると思うんです。

何か一つそんな形で、風林火山がせっかく盛り上がっていますから、それを引き継ぐ何か方策を考えたらいいんじゃないかと思います。

〔知事〕

分かりました。ありがとうございました。

〔参加者〕

知事は、トップセールスということを知事就任と同時に打ち出しましたけれども、トップセールスという意味はどういう意味なのかよく分かりません。

これ基本的に、政治と経営というのは切り離さないと、私はいけないと思います。

今、狙っているのは、政治と経営の合いの子みたいなことで、極めて分かりにくい。

本当に、山梨ブランドというのは商品は何かということをはっきりしないと、なかなか売り物がはっきりしないから打ち出すものがない。

これは、そういう意味では、もう少しその辺を企業的な考え方を、やっぱり導入したほうがいい。

基本的に観光だけということではなくて、総合的なイメージのマーケティングを、いっぺんやってみる必要があると思うんですね。

山梨とは何か。

富士山とブドウとか、その程度のことはすぐできるんですが、それ以外の発想は何かあるかと。

むしろ、それ以外の発想が非常に大事だと思うんです。

例えば、テレビと組むとか、あるいは新聞社と組むとか、何か箱根駅伝みたいなことがあるのかどうか、県庁からの発想ではだめだと思うんです。

まるっきり変わったところからの発想でないと、本当の意味のPRとか、そういうものは考えられないと思うんです。

富士の国やまなし館は、情報発信ではないですよ。

行ってもサービスもろくにしない。

来たらお茶ぐらい出すとか、いろんなサービスが基本になるわけですよ。

それからもう一つ、私は家が山梨にあって、だれも住んでいませんけれども、渋滞に巻き込まれてしまうので、なかなか行く気がしないんです。

これが本当にしんどくて、最近は電車で行くようにしていますけれども、これもいろいろな、例えば埼玉に抜ける道はこういう景色があるとか、富士へ抜ける道はこういう景色があるとか、富士川に抜ける道とか、小諸に抜ける道とか、いろんな道があるんですよね。

それは、観光ルートに十分なと思うんですが、そんなことをお願いできればと思います。

[参加者]

今、発想の転換というお話がありました。

じゃあ、山梨にあるものは何だということ考えたんですけれども、山梨にあるものは、よく考えると緑、織りなす山また山のあの緑。

そして、緑があるから空気は東京から比べればかなりいい。

水も、山梨から全国の40何%が、ミネラル水として生産されている。

それだけいい水がある。

つまり、あるものは何だというと、緑と山、それから水と空気なんです。

山梨の持つオンリーワンを材料にして政治それから経済、文化、その他を含めて発展させていく、そして山梨から情報を全国に発信すると。

水のことだったら山梨に行って聞け、空気をよくする空気の研究だったら山梨が一番だから、山梨の大学に行って聞けと、こういうことになっていく。

知事さんも関心を持っていらっしゃるというふうに聞いておりますので、ともかく山梨から地球環境全体に対する情報が発信される、そして日本中から、要するに地球の環境問題、水と空気に特化したその問題ということになったら、山梨にみんな聞きに来る。

すぐ取り掛からなくちゃならない問題だと思います。

[参加者]

長い間国際関係の仕事をずっとやっておりましたので、「俺の故郷は山梨だ」といって、よく外国人を山梨に連れて行ったんです。

みんな富士山を見ると、本当にこれは素晴らしいと感嘆するわけですね。

先ほど言われたように、山梨というのは緑と、空気と富士山と、自然の条件というのは全く文句のない、素晴らしい条件を備えているわけです。

ただ、成り立っている要素というものを考えますと、これはやっぱり自然と、そこに住む人間ですね。

人間のほうがどうかということ、なかなかこれちょっと私は不満が多いわけです。

せっかく外国の人を連れていっても、接し方とか、そういう点になると全く・・・。

先ほど無尽という話がありましたけれども、仲間内だけでは非常に親密に交わりますけれど、よその人への対応というのが非常にうまくできない県民性といえますか、そういうものがあるようです。

私は、外国の人には我が郷里の山梨は、ちょうどヨーロッパにおけるスイスだということを、常に言っておったんです。

ですから、日本に来たら日本のスイスを見てくれということを書いてきたわけですね。

スイスと比較してみますと、スイスに住んでおる人というのは、これは本当にインターナショナルなんですね。

英語もドイツ語もイタリア語も、だれでも自由に話せる。

そして来た人には本当に親密に付き合う。

本当にインターナショナルでありまして、そこがもう基本的に違うんですね。

産業面でも時計とか、いろんな世界的な産業、あの小さな国で持っているわけですね。

ですからどうも、どうしたらいいのかというのは、なかなか回答がないんですけれども、一つはやっぱり文化とか学問といえますかね、そういうものの中核を、少し育て上げていかなければいけないという気がしたんですね。

若者が皆、山梨の外の学校に行ってしまう。自身もそうなんです、外の学校に行ってしまうとなかなか帰ってこない。

そうするとその子どもなんか、もう山梨は興味がないというような関係になってきまして、そういうところが非常にスイスと違うような感じがしますね。

ですからやっぱり、文化水準をどうやって上げるがというのは、なかなかこれは難しいんですけれども、できるだけ引き上げていって、そしてやっぱり若者を留める、あるいは吸収する、そういう力を持つ必要があるんじゃないかというようなことを感ずる次第です。

これは、非常に長期的な問題だし、なかなか難しい問題だと思いますけれども、そういうことを頭に置いて、いろんな施策をやっていただければありがた

いな、ということを感じる次第でございます。

[参加者]

私は、知事の任期中に、過去の知事以上に表彰状を出すべきだと思うんです。表彰状をたくさん出すというのは、まず県内をきれいにクリーンアップをするということです。

世界文化遺産になるかどうかは、我々が努力した過程が大切であって、今の状況ではとてもなっては困る。

知事さんが、小さな団体も町も是非表彰状というものを、環境という問題一点だけに絞ってやっていくことが大事です。

やはり知事という立場では県民を褒めるということが大切でありまして、管理しようとかそんなことではなくて、「ありがとう」と言う、知事さんが「ありがとう」と言うことだと思うんですね。

[司会]

ありがとうございました。

それでは予定の時間となりましたので、知事から感想も含めてお願いします。

[知事]

それぞれに大変に貴重なお話、参考になるお話を承りまして、本当にありがとうございました。

さすがに郷里山梨を愛され、同時に東京、京浜地区におられますから、山梨を客観的に見ることができる皆様方ありますので、山梨では聞くことができない、大変に新鮮なご意見を承ったというふうに思っております、できる限りお答えができるように努力をしていきたいと思っております。

多少一言ずつ申し上げますと、増穂商業については合併、統合する構想がありますが、地元は反対しておりますから、現実問題はなかなか難しいんじゃないかと、私は思っておりますし、当面独立して進めていくということでもいいんじゃないかなと、私個人的には思っております。

それから、感謝状というお話、これは少なくともNPO活動についてのお話がありましたが、これは早速相談をさせていただきたいというふうに思います。

それから、富士の国やまなし館のお話は東京事務所長がお話をしました。

それから、山梨で子どもを産みたくなるような山梨に、これは素晴らしい構想だと思うんです。

正直今のところ、本当に山梨は、お医者さん不足の10県の1つに入っています、とりわけ産婦人科のお医者さんが足りなくて、もう次から次へと、甲府の周辺の公立病院、総合病院が分娩ができない、分娩をしないという状態になっていておまして、これを何とか止めることが今大騒ぎ。

それで何とか産婦人科を、山梨大学医学部はもう産婦人科は今一杯一杯ですから、東京から何とか引っ張ってきたいと思って、一生懸命あひるの水かきで、いろんな医大に話をしているんですが、みんなそれぞれの医大がいっぱいで、もうこれ以上とても割愛できないという状況で、正直非常に困っています。

金を何億円と積みば、来る医者もいるかもしれませんが、なかなかとりあえず産婦人科医がいなくて、これを確保するのは大変なことだな、というふうに思っておりますけれども、何か具体的にいい知恵があれば、お教えいただきたいというふうに思います。

それから、トップセールスというのも役人の発想ではだめなので、民間のもっと知恵、アイデアを使ってやっていかなければならない。

私もその点は本当にそうだと思って、例えば富士の国やまなし館などについても、観光物産連盟がやっているものですから、役所の延長でやっているわけです。

民間の発想は全くなしです。

確かに行ってみても、全然あれじゃ人は来ないだろうと思います。

民間の発想で、物事を見ていかなければいけないというのは、本当にそのとおりでございまして、これはどうしたらいいか、私も分からないんですが、よく検討してみたいと思っております。

道路の渋滞はそのとおりでして、やっぱり一番困るのは、あの中央道の小仏トンネル周辺が非常に渋滞しまして、これを何とかしなければいけないと思っております、特に圏央道が接続したものですから、ますます土日は渋滞して時間がかかるんでね。

これは何とかして4車線ですから6車線に広げることを、やってもらわなければいかんというふうに思っております。

それから、山梨から地球環境の情報発信を、ということがございましたし、また、環境に絞って表彰状というお話もありましたけれども、確かにおっしゃるように、山梨というのは従来から東京に近くて、東京の奥座敷的な役割を果たしてきたんですね。

江戸時代も、やはりここが直轄地だったということは、江戸が攻められたら山梨に行って、甲斐に行って最後に立てこもると。

そのためには、甲府城というのはできているんだろうと思うんです。

やっぱり、東京の奥座敷として、大都市東京で働く人々の癒しの場になって

いくのが、山梨の将来の姿だと。

それがまた、日本のスイスというもののイメージだろうというふうに思っております。そういう方向に持っていかなければならない、そのためには、やっぱり美観も含めて環境の改善をしていかなければならない。

これが、長い目で見ると一番大きい問題だというふうに思っております。

具体的にどうするかはともかくとしまして、その点は私の4年間の中で、是非充実したいというふうに思っております。

東京に近いというのは山梨のメリットですが、東京に近いことがデメリットでもあって、その最大が若い人がみんな東京へ出て行く。ですから今一生懸命企業誘致を進めておりますけれども、結局技術系の人材が確保できないからだめだと、こういうことになりますし、県内の企業が今度半分を仙台に移転することにしましたが、その理由も技術系の人材が確保できないという所にあります。これが非常に辛いところです。

何とか若い人が定着できるような、若い人に魅力のあるようなこの地域にしたいと思っておりますが、是非その点につきましては、また引き続きご教授いただければありがたいと思います。

いずれにせよ、今後とも引き続き、色々なお知恵やら情報を、私どもに与えていただければありがたいと思います。

時折こんな会を、こういうひざづめ談議という形にするのか、それとも東京県人会の幹部の皆さんとの懇談会という形にするかはともかくとして、開かせていただきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。

〔司会〕

ありがとうございました。

これをもちまして、知事対話「県政ひざづめ談議」を終了させていただきます。

有意義な意見交換ができましたことを深く感謝申し上げます。